

# カリフォルニア州におけるバイリンガル教員の資格試験

— CSET に着目して —

末 藤 美 津 子

## 要 旨

カリフォルニア州では2016年11月に提案58が住民投票で成立し、2017年7月より「グローバル経済に向けたカリフォルニア教育計画 (California Education for a Global Economy Initiative: CA Ed. G.E.)」が施行されることとなり、すべての生徒にバイリンガル・バイリテラシーの能力を身に付けさせることが目標とされた。だが、こうした教育目標の実現に必要なバイリンガル教員の不足が深刻化しており、カリフォルニア州教育局は、バイリンガル教員の養成に力を入れている。筆者は、バイリンガル教員の資格と養成のしくみを解明するため、カリフォルニア州の教員免許制度ならびにバイリンガル教員の資格要件について、いくつかの論稿で検討してきた。本稿は、こうした検討を踏まえて、バイリンガル教員の資格要件の一つである「カリフォルニアの教員のための教科試験 (California Subject Examinations for Teachers: CSET)」に着目する。

## I. はじめに

カリフォルニア州では2016年11月に提案58が住民投票で成立し、2017年7月より「グローバル経済に向けたカリフォルニア教育計画 (California Education for a Global Economy Initiative: CA Ed. G.E.)」が施行されることとなり、すべての生徒にバイリンガル・バイリテラシーの能力を身に付けさせることが目標とされている。だが、こうした教育目標の実現に必要なバイリンガル教員の不足が深刻化している。例えば、2019年には、家庭言語がスペイン語の生徒は2,037,851人いるのに対して、2008-09年度から2017-18年度の間にスペイン語のバイリンガル教員の資格を得た者は7,909人で、生徒対バイリンガル教員の比率はおよそ250対1となっている。他の言語ではその比率はさらに不均衡で、ベトナム語ではおよそ2,000対1、フィリピン語ではおよそ3,200対1、アラビア語ではおよそ6,800対1である<sup>(1)</sup>。

こうしたバイリンガル教員不足を解消しようと、カリフォルニア州教育局はさまざまな施策を実施してきた。2017年7月に承認された「英語学習者ロードマップ (English Learner Roadmap)」<sup>(2)</sup>は、英語学習者を対象とする教育政策を、従来の英語のみを教えるイングリッシュ・オンリー (English Only) からバイリンガル・バイリテラシーへと、大きく転換した画期的な政策である。多様な生徒を受け入れている地方の教育機関に向けて、具体的な教育プログラムを提示するとともに、高等教育機関に向けては、バイリンガル教員の養成課程を拡充し強化することを求めている。

また、2017年9月に発表された「バイリンガル教員の専門性を高めるためのプログラム (Bilingual

Teacher Professional Development Program: BTPDP)」<sup>(3)</sup> は、大きく二つの目的を持っている。第一の目的は、英語と英語以外の言語を話すことができるにもかかわらず、バイリンガル教員の資格を持っていない教員に、バイリンガル教員の資格を取得させることである。第二の目的は、バイリンガル教員の資格を持っているにもかかわらず、しばらくの間バイリンガル教育に携わってこなかった教員に、最新のバイリンガル教育の教授理論や教授法を伝授し、いわばリカレント教育を施すことである。より多くの者がバイリンガル教員の資格を得ること、ならびに、バイリンガルや多言語の環境の中で教えることができる有資格教員が再び現場に戻って来ることを支援するため、カリフォルニア州教育局は2018年1月1日から2020年6月30日までの間、補助金を支出することとした。2019-20会計年度において、カリフォルニア州はこのプログラムに500万ドルを計上している<sup>(4)</sup>。

このように、提案58が掲げていたバイリンガル教育の実施を後押ししていくため、バイリンガル教員の質と数の充実を図る政策も徐々に打ち出されている。そこで、筆者は、バイリンガル教員の資格と養成のしくみを解明するため、カリフォルニア州の教員免許制度ならびにバイリンガル教員の資格要件について、いくつかの論稿で検討してきた<sup>(5)</sup>。本稿は、こうした検討を踏まえて、バイリンガル教員の資格要件の一つである「カリフォルニアの教員のための教科試験 (California Subject Examinations for Teachers: CSET)」に着目する。

カリフォルニア州のバイリンガル教員資格は何度かの制度改革を経て、現在は、2009年7月に施行された「英語学習者・バイリンガル教員資格法 (AB1871)」<sup>(6)</sup> によって規定されている。州の教員免許に関する業務はカリフォルニア州教員免許委員会 (California Commission on Teacher Credentialing: CCTC) が統括しており、バイリンガル教員の資格としては、以下の三つの要件をすべて満たすことが求められている<sup>(7)</sup>。

- (1) 有効なカリフォルニア教員免許を保有する者、あるいは特別支援学級教員資格 (Special Class Authorization) として有効な言語療法士資格、医療支援員資格、リハビリ支援員資格を保有する者、あるいは特別支援教育教員資格として有効なスクールナースの資格を保有する者
- (2) 以下のどれかが証明できること
  - a. 有効な言語能力向上専門家 (Language Development Specialist: LDS) 資格、CLAD 資格<sup>(8)</sup>、英語学習者教授資格あるいは優勢な言語による CLAD 資格 (CLAD Emphasis) を伴う教員免許状
  - b. CLAD 資格に相当するか、以下のどれかの条件に基づく英語学習者教授資格を伴う教員免許状
    - ・「カリフォルニアの英語学習者のための教員 (California Teachers of English Learners: CTEL)」試験の1、2、3に10年以内に合格すること
    - ・英語学習者教授資格を示すカリフォルニア州以外の州の教員免許を保有していること
    - ・全米教職専門基準委員会 (National Board for Professional Teaching Standards: NBPTS)<sup>(9)</sup> の児童期初期か児童期中期の「新たな言語としての英語 (English as a New

Language)」の教員資格証、あるいは青年期前期から成人の「新たな言語としての英語」の教員資格証を保有していること

(3) 以下のどれかが証明できること

- a. 「カリフォルニアの教員のための教科試験 (California Subject Examinations for Teachers: CSET)」の「世界の言語 (World Languages)」のテストⅡかⅢ (言語種による)、Ⅳ、Ⅴに10年以内に合格すること
- b. カリフォルニア州教員免許委員会に認定されたバイリンガル教育プログラムを修了し、プログラムを提供する機関からバイリンガル教員免許に推薦されること
- c. CSETの「世界の言語」のテストの合格水準に対応するカリフォルニア州教員免許委員会に認定されたバイリンガル教育プログラムを修了すること

(1)は基礎資格となる教員免許を保有することを求めている、(2)と(3)はバイリンガル教員としての資質・能力を証明する試験に合格することやそれと同等の資質・能力を証明することを求めている。バイリンガル教員の資格試験としては、(2)の「カリフォルニアの英語学習者のための教員 (CTEL)」試験と(3)の「カリフォルニアの教員のための教科試験 (CSET)」がよく知られており、CTEL試験についてはすでに別稿で取り上げ検討した<sup>(10)</sup>。そこで本稿ではCSETに着目することにより、カリフォルニア州のバイリンガル教員に求められる資質・能力の一端を明らかにする。

## Ⅱ. CSETの概要

CSETは、教員志願者に対する教科に関する試験として、カリフォルニア州教員免許委員会 (CCTC) によって開発された。CCTCはCSETの作成と運用に関して、教育評価を手掛ける教育サービス企業であるピアソン (Pearson) と提携している。CSETは、志願者の知識と技能を他の志願者と比べるのではなく、「カリフォルニア・コモン・コア州スタンダード (California Common Core State Standards)」、「カリフォルニア・カリキュラム・フレームワーク (California curriculum frameworks)」、「カリフォルニアのK-12の生徒のアカデミック教科内容スタンダード (California K-12 Student Academic Content Standards)」などに照らして評価する<sup>(11)</sup>。

CSETは、複数教科教員免許状、単一教科教員免許状、特別支援教育教員免許状、教育工学教員資格、バイリンガル教員資格のために、志願者の基礎的な技能と教科教育に必要な能力を測るための試験である。バイリンガル教員資格にはCSET「世界の言語」が用いられ、16種類の言語に対応している。「世界の言語」のⅡかⅢかは言語種によるもので、Ⅱはアラビア語、アルメニア語、ペルシア語、フィリピン語、モン語、クメール語の6言語、Ⅲは広東語、フランス語、ドイツ語、日本語、韓国語、中国語、パンジャブ語、ロシア語、スペイン語、ベトナム語の10言語を対象としている<sup>(12)</sup>。

本稿では、16種類の言語のバイリンガル教員資格のうち、日本語のバイリンガル教員資格に注目したい。日本語のバイリンガル教員資格を取得するには、「世界の言語 (日本語) Ⅲ」、「世界の言語Ⅳ」、「世界の言語Ⅴ」の三つの試験に合格しなければならない。「世界の言語 (日本語) Ⅲ」は日本語の単

一教科教員免許状のための試験と同一の内容で、ハイスクールで日本語を教えることを目指している教員志願者のための試験問題でもある。「世界の言語Ⅳ」と「世界の言語Ⅴ」はすべての言語種のバイリンガル教員資格に共通の試験である。この三つの試験の領域と試験問題は以下のようなものである<sup>13)</sup>。

試験	領域	多肢選択問題	記述式問題
世界の言語 (日本語)Ⅲ	言語とコミュニケーション ・聞くこと ・読むこと ・書くこと ・話すこと 計	10問 10問 なし なし 20問	1問 1問 2問 2問 6問
世界の言語Ⅳ	バイリンガル教育とバイリンガリズム 異文化コミュニケーション 教授と評価 計	12問 13問 25問 50問	なし なし なし なし
世界の言語Ⅴ	地理的、歴史的内容 社会・政治的、社会・文化的内容 計	なし なし なし	2問 3問 5問

以下の章では、この三つの試験について、いくつかの問題例を取り上げて見ていきたい。

### Ⅲ. 「世界の言語（日本語）Ⅲ」の試験問題例

「世界の言語（日本語）Ⅲ」の試験問題例を、言語とコミュニケーションの聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの順に見ていく<sup>14)</sup>。

#### 1. 言語とコミュニケーション：聞くこと

##### <多肢選択問題>

以下の会話を聞いて、設問に答えなさい。2度聞くことができます。

(会話は日本語です。)

鈴木敦夫：いらっしゃい。おや？ 小田さん！お久しぶり。最近見かけないね。

小田順子：ええ、うちの近くにスーパーができてね。それで、便利なもので、そっちですませちゃうの。

鈴木敦夫：ああ、そう。じゃあ、しょうがないか。で、今日はまたどうして？

小田順子：ちょっとこっちに用があって。

鈴木敦夫：そう。小田さんはもう大学卒業したの？

小田順子：ええ、今年卒業して、東京に戻るつもりなんです。

鈴木敦夫：それはおめでとう。ご両親もよろこぶだろうねえ。

小田順子：ええ。もう、4年近く離れているから、いつも寂しがってて…。

鈴木敦夫：そうだろうねえ。で、今日は、何にする？

小田順子：そのトマト、下さい。

(受験者はスクリーン上で問題文を読むことができます。問題文は英語で書かれています。)

設問1. この会話はどこでの会話でしょうか。

- A. 通りで
- B. 鈴木さんの家で
- C. 鈴木さんの店で
- D. 小田さんの両親の家で

【正解】 C

設問2. 二人の話者はなぜ最近顔を合わせることがなかったのでしょうか。

- A. 小田さんが東京の両親のもとに出かけていたから。
- B. 小田さんはもう鈴木さんの近所に住んでいないから。
- C. 小田さんは卒業するために勉強が忙しかったから。
- D. 新しいスーパーマーケットが小田さんの家の近くにできたから。

【正解】 D

<記述式問題>

以下の会話を聞いて、設問に答えなさい。2度聞くことができます。

(会話は日本語です。)

男性：すみまん。山本よしえの夫ですが。

女性：あ、山本さんのご主人ですね。おめでとうございます。さきほど産まれましたよ。元気な女の子ですよ。

男性：えー。産まれたんですね！どこですか。

女性：もうすぐお部屋に戻れますので少々お待ちください。

男性：そうかあ、よかった。で、妻の具合は…。

女性：お産は順調でした。もちろん、まだゆっくりする必要がありますけど。とても元気でいらっしゃいますよ。

男性：そうですか、仕事で出張していたもので、一緒にいてあげられなかったんです。長野から車を  
すっ飛ばしてきたんですけど、間に合わなかったんです。

女性：そんなにがっかりしないでください。そういう方は他にも沢山いらっしゃいますよ。大切な  
は、これからですよ。じゃ、お父さんもそろそろお部屋の方に行けますか。

男性：お父さん？あ、僕のことか。

女性：(笑い) お部屋は818号室です。あちらのエレベーターからいらして下さい。

男性：はい、じゃ、行ってきます。

(受験者はスクリーン上で問題文を読むことができます。問題文は英語で書かれています。)

設問 会話に至った状況を説明し、男性が気にかけていることを明らかにしてください。日本語で答  
えても英語で答えてもどちらでも構いません。

### 【解答例】

山本よしえさんのご主人が奥さんの出産のため、病院にかけつけてきた。ご主人は出張だったらしく、長野から車を飛ばしてきたという。出産に立ち会えなかったことについて、ご主人はがっかりしていた。ご主人は看護師さんに奥さんの様態を尋ねたところ、順調だと教えられた。がっかりしているご主人に看護師さんは、これからが大事だから、気にしないでと伝えた。看護師さんがご主人のことを「お父さん」と呼んで話しかけると、ご主人は初めてのことなので、少し動揺していた。看護師さんが二人のいる部屋の番号を教えると、ご主人はさっそくその部屋に向かった。

## 2. 言語とコミュニケーション：読むこと

### <多肢選択問題>

以下の文章を読んで、三つの設問に答えなさい。

(課題文は日本語で、設問は英語で書かれています。)

昨日、東京都は東京高速道路の通行料金をこの4月から値上げすると発表しました。普通車は100円の値上げで700円に、大型車は200円の値上げで1500円になるというもので、もしこの案が実行されれば、東京高速道路は全国でもっとも高い高速道路となります。しかしながら、東京高速道路は多くの人が利用する道路だけに、反対する声も多く出ています。

値上げを決めた東京都は、「これ以上の赤字をつくらないためにも、値上げはさけられない」としており、交渉には一切応じない意向です。東京在住の会社員の山本英弘さん(36)は、インタビューで「値上げ？とんでもない！東京高速道路は、いつも混んでいるし、値段も高い。もう使いたくないですね」と答え、またタクシー運転手の川田昇さん(55)は「東京高速道路が赤字とは信じられないよ。値上げの理由にしてるだけじゃないのか」と怒りをおさえきれないようすでした。

高速道路 toll highway

交渉 negotiation

意向 intention

設問 1. 東京高速道路の通行料金の値上げについて述べている正しい文章はどれですか。

- A. 通行料金はすべての大きさの車で 100 円値上げされる。
- B. 東京都の役人は、通行料金の値上げはさけられないと言っています。
- C. 料金の値上げは、東京高速道路を利用する多くの人のためになります。
- D. 東京都の役人は、新しい通行料金の適切な金額について交渉に応じる意向があります。

【正解】 B

設問 2. この文章はどのような形で発表されることを想定して書かれましたか。

- A. 新聞の社説
- B. 読者から編集者への手紙
- C. ビジネスニュースの解説
- D. 新聞のトップ記事

【正解】 D

設問 3. この文章で一番主張したいことはどれですか。

- A. 東京高速道路の通行料金の値上げに多くの人が反対している。
- B. 東京高速道路は現在、使用料金がとても安い。
- C. 東京高速道路の経費は現在、十分足りている。
- D. 東京高速道路は、国内で最もよく整備されている。

【正解】 A

#### <記述式問題>

以下の文章を読んで、設問に答えなさい。

(課題文は日本語で、設問は英語で書かれています。)

メニューを開く。ゾッ。血が引く。頭の中が真っ白になる。

真向かいに座った先生が、「どうしたの?」とお訊きになる。私は蒼ざめていたかもしれない。顔が強張っていたかもしれない。「このメニュー、料理の値段が書いてないんです」。「え、僕のものには書いてあるよ」。

私は、大学院在学中に、学業のかたわら美術評論などをぼちぼち翻訳しはじめた。あれは単行本の翻訳の二冊目を出したあとだったろうか。それまでも、エッセイであれ、短編小説であれ、原文に分



からない箇所があれば電話で尋ねたり、お宅にうかがってまとめて質問したり、先生にはさんざんお世話になったので、この際お礼をしようと意気込んで、フレンチ・レストランでの食事にお誘いしたのだ。さすがにディナーは荷が重いから、ランチ。青山にある一戸建ての瀟洒な店で、予約するだけでも、入るだけでもドキドキだったのに、開いたメニューに値段がない！

事情はすぐに判明した。そのお店では、客が男女の二人連れならば、食事代を払うのは当然男性と決め込み、値段入りの男性用と値段抜きの女性用の二種類のメニューを用意しているのだった。あわててメニューを交換した私に先生はおっしゃった。「カズコ、心配なくていい、足りなかったら僕が払うからね」。

強張る to stiffen

瀟洒 elegant, refined

設問 内容を要約し、筆者の心情を描写し、その場所の特徴を述べなさい。日本語で答えても英語で答えてもどちらでも構いません。

### 【解答例】

一人の作家が、自分の恩師をフランス料理店の昼食に招待しました。美術評論の翻訳活動を始める上で、先生から助言を受けたことに対する感謝の気持ちを伝えたくて計画しました。選んだ料理店は高級感あふれる東京の一画にあるとても優雅なお店で、門をくぐるにも彼女は緊張しました。さらに、彼女がメニューを広げると、なんとメニューに値段の表示がなかったので、驚きを隠せませんでした。彼女の表情を見て、先生は大丈夫なのかと尋ね、持ち合わせが足りなければ、食事の代金の負担をしても良いと伝えました。

全く値段の表示がないメニューを受け取ったことで、この作家が動揺したのはもっともなことです。あまりにもあからさまにメニューの値段のことに言及した自分が少々恥ずかしくなり、先生には、たとえ十分なお金を持ち合わせていなくても、必ず、自分が支払うと念を押しました。もし先生が支払うことになったら、この昼食会は、先生が彼女のためにこれまでしてくれた数々の好意のリストに加わってしまうからです。

このフランス料理店は、東京の優雅で粋な場所にありました。この料理店では、男女のカップルで食事する際、男性客が食事代の負担をすることが一般的でした。そこで、男性客は値段が明らかなメニューを手渡され、女性客は値段を伏せたメニューを渡されていたのです。

### 3. 言語とコミュニケーション：書くこと

#### <記述式問題>

(課題文は英語で書かれています。)



課題 日本の友人が、あなたが今、住んでいる地域にある大学院に入学したいと考えていて、その地域に関する情報を得たいと思っています。この要望に応えるために、あなたの友人に日本語で手紙を書いてください。その手紙には、あなたの住んでいる地域の大切な特徴を記してください。例えば、気候、自然の特徴、住民の構成、地域の特質、文化施設、教育環境、医療環境、娯楽施設などについてです。また、その手紙には、あなたの地域に住んで大学院に通うことの長所と短所も記してください。

#### 【解答例】

すみこ様

アマースト市にいらっしゃると伺い、喜んでいます。私がここに住んで2年経ちます。きれいで静かな大学町です。子どものいる家庭には、良い環境のようです。スポーツや自然を好む人なら、ここではかなりいろいろなことができます。サイクリングとハイキングを楽しむ人が多いし、冬にはクロスカントリー・スキーもできます。たくさんの山があり、絶景です。また、季節の区別もはっきりしています。個人的には、ここでの最も美しい季節は秋だと思います。私のアパートから、山々の素晴らしい眺めを堪能することができ、雪に覆われた山も美しいものです。周りの自然に大変に恵まれているので、空気も素晴らしいです。

アマースト市は、教育面では優れた場所で、この辺りにはたくさんの大学があり、大学生活のために便利なものがそろっています。数多くの図書館も利用できます。学生サービスも充実しています。その反面、私たちのような独身者にとって、楽しみはあまりありません。学部生ならば、人と出会う機会はたくさんあるでしょうが、私たちの年代の者はほとんど既婚者です。

#### 4. 言語とコミュニケーション：話すこと

##### <口頭試問>

以下の課題を読みなさい。考える時間が2分間あります。その後、答えを2分間で録音してください。（英語で書かれた課題文をスクリーン上で読むことができます。）

課題1. 日本の友人があなたの住んでいる近くの市で職を得たため、その地域に住んで働くことについてあなたに意見を求めてきました。あなたの地域に住んで働くことについての長所と短所を日本語で述べてください。その際、その地域の大切な特質も述べてください。例えば、気候、自然の特徴、住民の構成、地域の特質、文化施設、教育環境、医療環境、娯楽施設などについてです。また、あなたの地域に住んで働くことの長所と短所も述べてください。

課題2. あなたは、日本の大学のサマーセミナーに参加しています。あなたは、参加している学生に対して、あなたの大学での学生生活について話してくれるよう頼まれました。あなたの通っている大学について、日本語で説明してください。その際、次のようなことも含めて話して

ください。大学の概略、あなたがその大学を選んだ理由、あなたが大学について気に入っている点とそうではない点、その大学を他人に勧める理由あるいは勧めない理由の4点です。

#### IV. 「世界の言語Ⅳ」の試験問題例

「世界の言語Ⅳ」の試験問題例を、バイリンガル教育とバイリンガリズム、異文化コミュニケーション、教授と評価の順に見ていく<sup>(15)</sup>。

##### 1. バイリンガル教育とバイリンガリズム

＜多肢選択問題＞

設問1. カリフォルニアのバイリンガル教育に影響を与えた訴訟事件や法令について正しく述べているのは次のどれか。

- A. ラオ対ニコラス訴訟事件：学区に対して、第一言語が英語でない生徒にコアカリキュラムを平等に学ぶ機会を保障すべきことを求めた。
- B. カスタネーダ対ピカード訴訟事件：カリフォルニア・バイリンガル・バイカルチュラル教育法に従わない学区に対して罰金を科した。
- C. 初等中等教育法：適正年次進捗度を達成できない学区に対して罰金を科した。
- D. 提案227：学区に対して、すべての教科のスタンダードテストを英語で実施することを求めた。

【正解】A

設問2. 母国で6年間の学校教育を受けてきた生徒は、カリフォルニアの学校でバイリンガル教育を受ける際に5学年に配属される。生徒の母国での学校教育のうち英語能力の向上に最も影響を与えるのは次のどれか。

- A. 母国の学校教育の中で学んだ社会的技能は、新しい学習環境に溶け込むのを阻害する感情を抑制し、英語の習得を促進する。
- B. 生徒の母語の技能は、英語学習に必要な認知能力を制限してしまうので、第二言語の習得を妨げる。
- C. 生徒が母国の学校教育で学んだ言語概念や学習方法は、英語能力の向上を促進し支援する。
- D. 二つの学校教育で教育方法が異なることから、生徒は英語学習を始める前に、学校に慣れるための準備期間を必要とする。

【正解】C

##### 2. 異文化コミュニケーション

＜多肢選択問題＞

設問1. バイリンガル教育において文化的に適切な教科教育を実践することの一番の意義は次のどれか。

- A. 生徒は教室内でより注意深くなり、時間内で課題を仕上げるようになる。
- B. 生徒は毎日の生活と経験に根差す新しい概念をより理解しやすくなる。
- C. 生徒は母語に関する知識から第二言語に関する知識へと重心を移していくようになる。
- D. 生徒は教室内でのテーマを家庭や地域社会でもより広く探求していくようになる。

【正解】 B

設問 2. 小学校のバイリンガル教員は、バイリンガル教育の最新の研究や方法論について議論するために、学校内の他のバイリンガル教員と毎月、読書会を開催している。教員たちは何のためにこうした活動を行っているのだろうか。

- A. 教員がバイリンガル教育の新しい考え方について自分自身の研究を遂行するため。
- B. バイリンガル教育の教授法を考案する際に、教育実践を振り返ったり、さまざまな視点に目を向けたりするため。
- C. すべての教員に共有されるべき学校内のバイリンガル教育の問題点を特定するため。
- D. 学校内のバイリンガル教育のための最新の技術や方法論を実施するため。

【正解】 B

### 3. 教授と評価

#### <多肢選択問題>

設問 1. バイリンガル教育を受けている生徒が、母語で書かれた文章を読むことによって得られた情報をまとめていくのに役立つ少人数のグループ活動は次のどれか。

- A. その文章を読む前に、そこで発見するかもしれない事柄について話し合う。
- B. その文章の中で発見するなじみのない語彙や表現を抜き出したり、予想される意味を話し合ったりする。
- C. その文章で示されている情報にまつわるいくつかの疑問点に答えていく。
- D. その文章の中で出会ったさまざまな考え方の相関関係を示す図を作成する。

【正解】 D

設問 2. バイリンガル教育において、観察評価を用いることの意義を述べているのは次のどれか。

- A. 教員は学期中、生徒の言語技能の向上に集中的に時間を割くことができる。
- B. 生徒は教員と母語と第二言語の両方を用いたやりとりに頼らなくなる。
- C. 教員はさまざまな文脈の中で、生徒の母語と第二言語の向上を跡付けることができる。
- D. 教員が生徒を非公式に評価すると、生徒の反感が高まる。

【正解】 C

## V. 「世界の言語 V」の試験問題例

「世界の言語 V」の試験問題例を、地理的、歴史的 content と社会・政治的、社会・文化的 content の順に見ていく<sup>(16)</sup>。

### 1. 地理的、歴史的 content

#### <記述式問題>

あらゆる文化において地勢は大きな役割を演じている。フィリピンの地勢と文化について知っている知識を用いて、フィリピンの地勢の主な特質を挙げて、その地勢の特質がフィリピン文化の社会的、政治的、経済的な発展にどのような影響を与えてきたかを、英語で 100 語から 200 語で説明しなさい。

#### 【解答例】

フィリピンは 7,000 以上の島から成る群島である。こうした島々はアジア大陸から 500 マイルほど離れていて、南北に 1,000 マイル以上、東西に約 700 マイルに渡っている。

このような離れ離れの地勢的な構成が、フィリピンの極めて幅の広い言語の多様性を生み出した。フィリピン人の多くは島に移住してきたマレー系移民の子孫であるが、フィリピン人は主要な言語だけでも 11 の異なる言語を持ち、さらに 80 以上の少数言語を持っている。こうした言語の多くは相互に理解することができないので、すべてのフィリピン人によって使用される国の共通言語を制定することが長年にわたって議論されてきた。もし国がもう少しコンパクトな領土であれば、異なるグループの人々も一定のペースで交流し、国もすべての人々によって使用され、理解される共通の言語を持つことができたであろう。

離れ離れの地勢的な構成は、フィリピンの経済発展にも影響を及ぼした。ここでの大きな課題は輸送機関である。フィリピンは貴重な鉱物資源を埋蔵しているが、そうした資源を島々の間で輸送するのが難しいため、鉱物資源の開発が進められてこなかった。道路やフェリーで本島とつなぐ主要道路の建設もそうである。こうしたことが改善されれば、フィリピンの人々は開発を阻害している現状を克服し、自分たちの島の多くの自然資源を十分に活用できるようになるであろう。

### 2. 社会・政治的、社会・文化的 content

#### <記述式問題>

文化的アイデンティティは多くの要因の影響を受けている。合衆国における韓国系コミュニティについて知っている知識を用いて、韓国系文化を身につけている人々の間で文化的アイデンティティを育む上で大きな影響を与えている社会・政治的あるいは社会・文化的要因を挙げて、その要因がそうした人々の韓国文化、二文化、多文化のアイデンティティをどのように育んできたかを英語で 100 語から 200 語で説明しなさい。

**【解答例】**

今日の韓国系アメリカ人のアイデンティティを形成する上で重要な要因の一つは、朝鮮半島出身の人々の民族的統一性を強調する文化的な視点である。この視点に立つと、すべての朝鮮半島出身者は、何をしていても、どこに住んでいても、政治的あるいはイデオロギー的信条がどうであれ、大きな家族の一員となる。韓国人も朝鮮人も合衆国に住む朝鮮半島出身者も、大きな韓国系コミュニティの一員である。

エスニシティを共有することは、朝鮮半島の文明化の長い歴史と、この数十年の間の韓国の驚異的な経済的、政治的な発展に対してナショナリストとしての強い誇りも共有することになる。この統一された民族的なナショナリズムは、合衆国における韓国系文化を身につけた者に、優れた文化の継承者としての強い自尊心をもたらしてきた。

同時に、韓国人は、合衆国の文化のコミュニティの一員として、自分自身を位置づけてきた。その結果、韓国系アメリカ人の多くは、真に二文化のアイデンティティを持っていると言われてきた。韓国系アメリカ人は、韓国系ではないいわゆるアメリカ人の近所に住み、子どもを同じ学校に通わせ、同じメディアを見たり読んだりして、同じ市民的価値観を持っている。その一方で、韓国系アメリカ人は、自分たちの間で共有されている伝統とエスニシティ、ならびに自分たちが独特な文化的コミュニティの一員であると示すことに大きな誇りを持っている。

## Ⅵ. おわりに

本稿ではCSETに着目することにより、カリフォルニア州のバイリンガル教員に求められる資質・能力について検討した。バイリンガル教員資格にはCSETの「世界の言語」のⅡかⅢ、Ⅳ、Ⅴの三つの試験に合格することが求められている。「世界の言語」のⅡとⅢは、言語とコミュニケーションについて、聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの四技能を測るものとなっている。ⅡかⅢかは言語種によりどちらかに割り振られ、日本語のバイリンガル教員資格には「世界の言語」のⅢが課されている。

「世界の言語」のⅣとⅤはすべての言語種に共通の試験である。「世界の言語」のⅣは、バイリンガル教育とバイリンガリズム、異文化コミュニケーション、教授と評価という三領域から成り、アメリカならびにカリフォルニア州におけるバイリンガル教育の歴史、政策、理論、実践に関する知識を問うものとなっている。「世界の言語」のⅤは、地理的、歴史的内容、社会・政治的、社会・文化的内容という二領域から成り、アメリカならびにカリフォルニア州の民族・言語・文化の多様性に関する知識を問うものとなっている。こうしたバイリンガル教育とバイリンガリズム、民族・言語・文化の多様性に関する知識は、マイノリティ言語を母語とする子どもたちの教育を担う教員には広く共通に求められるものと思われる。日本において外国にルーツを持つ児童生徒の指導に当たる教員にも同様に必要とされる知識であろう。

本稿では日本語のバイリンガル教員資格を取り上げたので、ここでアメリカにおける日本語教育の動向に若干、目を向けてみたい。

国際交流基金は3年ごとに海外の日本語教育機関に関する大規模な調査を実施している。2015年度に実施した「海外日本語教育機関調査」によると<sup>(17)</sup>、アメリカにおける日本語教育機関は1,462機関、教師は3,894人、学習者は170,998人である。学習者を教育段階別にみると、初等教育が19,453人(11.4%)、中等教育が73,648人(43.0%)、高等教育が67,335人(39.4%)、その他教育機関が10,562人(6.2%)となっている。その他教育機関の主なものは、海外で暮らす日本人子女を受け入れている補習校である。また、教師の75.9%を日本語のネイティブ教師が占めている。ただし、この割合は教育段階によって異なり、中等教育レベルでは、約半数の47.6%の教師がノン・ネイティブ教師であるという。

アメリカにおける日本語教育の質保証にかかわる動きとしては、まず、スタンダードの作成を挙げることができる。1996年に全米外国語教育協会(American Council on the Teaching of Foreign Languages: ACTFL)によって作成された「外国語学習ナショナル・スタンダーズ(World-Readiness Standards for Learning Languages)」<sup>(18)</sup>は、キンダーから大学までの外国語教育の指針を網羅するもので、多くの州、学区、教育機関によって採用されている。学習目標は、コミュニケーション(Communication)、文化(Cultures)、コネクション(Connections)、比較(Comparisons)、コミュニティ(Community)という「五つのC」から構成されている。この「外国語学習ナショナル・スタンダーズ」を踏まえて、1999年に全米日本語教師会(National Council of Secondary Teachers of Japanese)ならびに北米日本語学会(Association of Teachers of Japanese)により開発されたのが、「日本語学習スタンダーズ」<sup>(19)</sup>である。

ハイスクールにおける「日本語学習スタンダーズ」導入は、2006年に大学入試委員会(College Board)が提供するアドバンスト・プレースメント・プログラム(Advanced Placement Program: AP)に日本語が加えられたことにより広まった。APプログラムとは、ハイスクールの生徒に大学レベルの授業を受ける機会を与え、試験の結果に基づいて、大学入学後に単位を認定したり、上級コースの受講許可を与えたりするものである。ハイスクールでAP日本語コースが開始され、学年末にAP日本語試験が実施されるようになったことで、ハイスクールにおける日本語教育のレベルが向上し、ハイスクールと大学の日本語教育の円滑な接続も図られるようになった。AP日本語試験は2007年に第1回が実施され、2,577人が受験した。2017年の時点で、APコースの存在する外国語は、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ラテン語、イタリア語、日本語、中国語の7言語である<sup>(20)</sup>。ACTFLの調査によると、日本語は、アメリカ人の学習したい外国語として、スペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語に次ぐ人気を博しているという<sup>(21)</sup>。

AP日本語試験からは、大学1年生の日本語コースのレベルを推し量ることができる。例えば、多肢選択問題の読むことの試験問題は、新聞記事、短い物語、電子メール、手紙、順番通りの指示、旅行案内の6種類の文章から構成されている<sup>(22)</sup>。こうしたAP日本語試験の試験問題とCSETの日本語のバイリンガル教員資格の試験問題を比較することにより、バイリンガル教員に求められる資質・能力をさらに明確化できると思われる。今後の課題としたい。



## 注

- (1) Jonathan Kaplan & Aureo Mesquita, "California's Bilingual Opportunity: Meeting the Demand for Bilingual Education Teachers to Help Students Achieve Biliteracy," *California Budget & Policy Center, Fact Sheet*, November 2019, <https://calbudgetcenter.org/resources/californias-bilingual-opportunity-meeting-the-demand-for-bilingual-education-teachers-to-help-students-achieve-biliteracy/>, accessed August 1, 2020.
- (2) California Department of Education, "California English Learner Roadmap State Board of Education Policy: Educational Programs and Services for English Learners," *English Learner Roadmap*, May 8, 2018, <https://www.cde.ca.gov/sp/el/rm/>, accessed August 1, 2020.
- (3) California Department of Education, "Bilingual Teacher Professional Development Program 2017 Request for Applications," September 6, 2017, <https://www.cde.ca.gov/nr/el/le/yr17ltr0906b.asp>, accessed August 1, 2020.
- (4) (1)と同じ、accessed August 1, 2020.
- (5) 末藤美津子「カリフォルニア州における多言語教育の取り組み」『東洋学園大学紀要』第27号、2019年2月、pp.159-170。「カリフォルニア州におけるバイリンガル教員の資格と養成」『東洋学園大学紀要』第28号、2020年2月、pp.94-106。「カリフォルニア州におけるバイリンガル教員の資格試験—CTELに着目して—」『東洋学園大学 教職課程年報』第2号、2020年3月、pp.25-38.
- (6) California Commission on Teacher Credentialing, *Proposed Amendments to 5 California Code of Regulations Pertaining to English Learner and Bilingual Authorizations*, March 2010, <https://www.ctc.ca.gov/docs/default-source/commission/agendas/2010-03/2010-03-1h-pdf.pdf?sfvrsn=0>, accessed August 1, 2020.
- (7) State of California Commission on Teacher Credentialing, *Bilingual Authorizations*, May 2017, <https://www.ctc.ca.gov/docs/default-source/leaflets/cl628b.pdf?sfvrsn=2#search=%27State+of+California+Commission+on+Teacher+Credentialing%2C+Bilingual+Authorizations%27>, accessed August 1, 2020.
- (8) CLAD 資格とは、「異文化理解、言語能力、学力の向上を目指す教員資格 (Crosscultural, Language and Academic Development (CLAD))」のことである。カリフォルニア州以外の州で教員資格を取得し、英語学習者のために必要とされている教授資格を持たない者、ならびに、英語学習者への教授資格が含まれる以前にライアン法 (Ryan Act of 1970) の下でカリフォルニアの教員資格を取得した教員を対象とし、プログラムを修了することで、ELD と SDAIE の教授資格を得ることができる。なお、詳細は、末藤美津子「カリフォルニア州におけるバイリンガル教員の資格と養成」『東洋学園大学紀要』第28号、2020年2月、を参照のこと。
- (9) 全米教職専門基準委員会とは、1986年のカーネギー財団の報告書『備えある国家—21世紀の教員—(A Nation Prepared: Teachers for the 21st Century)』の提言を受けて、1987年に設立された非営利組織で、教職のための専門職基準作成とそれに基づく「熟達教師」の資格認定を行っている。教師は何を知るべきで、何ができるべきかという観点から厳格な基準を作成し、その基準を満たした教師に全米委員会資格証 (National Board Certificate) を発行している。なお、詳細は、末藤美津子「カリフォルニア州におけるバイリンガル教員の資格と養成」『東洋学園大学紀要』第28号、2020年2月、を参照のこと。
- (10) 末藤美津子「カリフォルニア州におけるバイリンガル教員の資格試験—CTELに着目して—」『東洋学園大学 教職課程年報』第2号、2020年3月、pp.25-38.
- (11) California Educator Credentialing Examinations, "General Information about the CSET Program," *California Subject Examinations for Teachers Test Guide*, 2019, [https://www.ctcexams.nesinc.com/content/docs/CSET\\_Prep/CS\\_testguide\\_geninfo.pdf#search=%27California+CSET+Test+Guide+General+Information+about+the+CSET+Program%27](https://www.ctcexams.nesinc.com/content/docs/CSET_Prep/CS_testguide_geninfo.pdf#search=%27California+CSET+Test+Guide+General+Information+about+the+CSET+Program%27), accessed August 1, 2020.
- (12) California Educator Credentialing Examinations, "CSET," *About the Assessments Programs*, [http://www.ctcexams.nesinc.com/PageView.aspx?f=GEN\\_AboutCSET.html#cladreqreport](http://www.ctcexams.nesinc.com/PageView.aspx?f=GEN_AboutCSET.html#cladreqreport), accessed August 1, 2020.



- (13) California Educator Credentialing Examinations, “CSET: Japanese,” *Assessments*, [http://www.ctcexams.nesinc.com/TestView.aspx?f=HTML\\_FRAG/CA\\_CSET157\\_TestPage.html](http://www.ctcexams.nesinc.com/TestView.aspx?f=HTML_FRAG/CA_CSET157_TestPage.html), accessed August 1, 2020.
  - (14) California Educator Credentialing Examinations, *California Subject Examinations for Teachers, Test Guide, Japanese Subtest III Sample Questions and Responses and Scoring Information*, 2015, [https://www.ctcexams.nesinc.com/content/docs/CSET\\_Prep/CS\\_159items.pdf](https://www.ctcexams.nesinc.com/content/docs/CSET_Prep/CS_159items.pdf), accessed August 1, 2020.
  - (15) California Educator Credentialing Examinations, *California Subject Examinations for Teachers, Test Guide, World Languages Subtest IV Sample Questions and Responses and Scoring Information*, 2015, [https://www.ctcexams.nesinc.com/content/docs/CSET\\_Prep/CS\\_250items.pdf](https://www.ctcexams.nesinc.com/content/docs/CSET_Prep/CS_250items.pdf), accessed August 1, 2020.
  - (16) California Educator Credentialing Examinations, *California Subject Examinations for Teachers, Test Guide, World Languages Subtest V Sample Questions and Responses and Scoring Information*, 2015, [https://www.ctcexams.nesinc.com/content/docs/CSET\\_Prep/CS\\_251items.pdf](https://www.ctcexams.nesinc.com/content/docs/CSET_Prep/CS_251items.pdf), accessed August 1, 2020.
  - (17) 国際交流基金『海外の日本語教育の現状 2015年度日本語教育機関調査より』2017年、<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey15.html>, accessed August 1, 2020.
  - (18) American Council on the Teaching of Foreign Languages, *World-Readiness Standards for Learning Languages*, <https://www.actfl.org/sites/default/files/publications/standards/World-ReadinessStandardsforLearningLanguages.pdf>, accessed August 1, 2020.
  - (19) 外国語学習ナショナル・スタンダーズ・プロジェクト『21世紀の外国語学習スタンダーズ：日本語スタンダーズ』1999年、(聖田京子訳、国際交流基金日本語国際センター発行)、[https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/syllabus/pdf/sy\\_honyaku\\_9-2USA.pdf#search=%27E8%81%96%E7%94%B0%E4%BA%AC%E5%AD%90+21%E4%B8%96%E7%B4%80%E3%81%AE%E5%A4%96%E5%9B%BD%E8%AA%9E%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%B3%E3%83%80%E3%83%BC%E3%82%BA+%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E5%AD%A6%E7%BF%92%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%B3%E3%83%80%E3%83%BC%E3%82%BA%27](https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/syllabus/pdf/sy_honyaku_9-2USA.pdf#search=%27E8%81%96%E7%94%B0%E4%BA%AC%E5%AD%90+21%E4%B8%96%E7%B4%80%E3%81%AE%E5%A4%96%E5%9B%BD%E8%AA%9E%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%B3%E3%83%80%E3%83%BC%E3%82%BA+%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E5%AD%A6%E7%BF%92%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%B3%E3%83%80%E3%83%BC%E3%82%BA%27), accessed August 1, 2020.
  - (20) 国際交流基金「米国(2017年度)」『日本語教育 国・地域別情報』2017年、<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2017/usa.html>, accessed August 1, 2020.
  - (21) 同上。
  - (22) CollegeBoard, “Exam Information,” *AP Japanese Language and Culture: Course and Exam Description*, 2020, <https://apcentral.collegeboard.org/pdf/ap-japanese-language-and-culture-course-and-exam-description.pdf>, pp.173-174, accessed August 1, 2020.
- 以下は多肢選択問題の読むことの手紙に関する試験問題例で、課題文は日本語で、設問は英語で書かれている。

### 【課題文】

山下先生へ

先日はお忙しい中、本校の科学シンポジウムにおこしください、ありがとうございました。

先生の「高齢者とテクノロジー」についてのお話は、生徒も教員も、たいへんおもしろく聞かせていただきました。現代は、おとしよりの数がふえています。先生の「ハイテクな電化製品や車なども、おとしよりに分かりやすく、使いやすくしなければいけない」というお考えは、今の時代、とても大切だと思いました。私たちの学校には、科学者やエンジニアになりたい生徒が多いので、またぜひ先生のお話を聞かせていただきたいと、みんな願っています。

来年のシンポジウムにも来ていただけるとのこと、ありがとうございます。くわしいことは、

新しい学年が始まる4月ごろに、お知らせします。

小林拓也

【設問1】日本の社会のどのような局面が山下先生の研究に着目しているのか。

- A. 高齢者人口
- B. 教育制度の変遷
- C. 公共交通機関の発展
- D. 職場におけるテクノロジーの統合

正解：A

【設問2】生徒は山下先生についてどのように思っているのか。

- A. 先生の講義は先生の著書よりもおもしろい。
- B. さらに質問をするために先生のところを訪問したい。
- C. 先生はテクノロジーの進展に反対している。
- D. 先生は自分たちに創造的な刺激を与えた。

正解：D

【設問3】小林先生は山下先生に何を頼んでいるのか。

- A. インタビューのために事務室にきてもらいたい。
- B. 自分の書いた本の書評を書いてもらいたい。
- C. 生徒のためにまた話を聞かせてもらいたい。
- D. ハイテク製品のいくつかを推薦してもらいたい。

正解：C

【設問4】小林先生は学校の生徒についてどのように語っているのか。

- A. 生徒の多くは科学者やエンジニアになりたがっている。
- B. すべての生徒は先月開かれたシンポジウムに参加した。
- C. 生徒は今年再び山下先生に来てもらいたいと願っている。
- D. 山下先生の話は時々難しく理解できなかったと文句を言っている。

正解：A

本稿は、平成30～32年度科学研究費助成事業（基盤研究（C）（一般））『『カリフォルニア多言語教育法』の意義と課題』（研究代表者：末藤美津子、課題番号：18K02396）の成果の一部である。